

## 第 68 回 入学式 式辞

2022. 4. 5 学長 西内みなみ

第 68 期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

1955 年に開学した本学は、皆様と共に、68 年目の春を迎えています。

聖母マリア、本学の創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。

今、コロナ禍より酷い悲劇が、私たちに襲いかかっています。血と涙が、川となってウクライナを流れています。もはや単なる軍事作戦ではなく、死と破壊と悲惨をまき散らす戦争です。犠牲者の数が増え、避難者、特に母親と子どもの数も増えています。コロナ禍で世界中が苦しむ中、人類はその英知を結集してパンデミックに立ち向かわなければならない時に、大切な命が損なわれています。この戦争で、命を奪われた方々、家族や故郷を失った方々のために祈りましょう。一刻も早く、全ての人々に平和がおとずれますように。

感染拡大が収束しない中、本学は様々な感染予防の対策を講じて、学生の皆さまをお迎えしています。細心の注意を払いながら、本学がこれまで大切にしてきた、人と人とがつながる学びを、学生の皆さまに提供し続けています。

学生の皆さまの代表である学生会も取り組んで下さり、昨年度、ハローウィンや「あかしや祭」も中止せず、様々な工夫をこらして実現して下さいました。ピンチをチャンスに変える学生の皆さまに、たくさんの励ましを頂きました。

皆さまにとってのこの 2 年間は非常に貴重な時間であり、その時間を実りあるものにしていくことが本学には求められています。パンデミックという深刻な危機に直面した今こそ、あの震災の時のように「他者のために生きる」という人間の本質に立ち返ることが求められています。

短大の正面玄関ホールには、世界に一つしかない美しいステンドグラスがあります。

そこに描かれているのは、先ほど朗読された聖書の場面です。イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問したという場面です。この「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学が最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。

聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろの若い女性でした。

赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠して、たいへんであったにもかかわらず、親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行きました。そして、2 人が出会った場面、この聖書の場面が、桜の聖母短期大学の正面玄関に

ある美しいステンドグラスに描かれています。

そこに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神です。まさに「他者のために生きる」という人間の本質を現しています。

この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が創立されました。

1657年、聖マルグリット・ブールジョワという一人の修道女が、フランスから、大西洋を船で2、3か月もかけて、未開地のカナダに、出かけて行き、多くの子どもたちや大人たちに教育を授けました。

聖マルグリット・ブールジョワの設立した修道会は、フランス語で「コングレガシオン・ド・ノートルダム」日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」といいます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会が、1932年、今から約90年前、5人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。

5人のシスターは、福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校を、高等学校を次々と開設されました。そして、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、1955年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。

フランスからカナダに派遣された聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から福島市に派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。その歴史と伝統によって、今日、私たちは、68期生の皆様をお迎えする事ができるのです。

新型コロナウイルスと共に生きる生活は避けることができないでしょう。私たちは、この試練を乗り越えることができると信じています。私たち教職員と共に、感染予防しつつ、桜の聖母短期大学ならではの学びによって、希望を持って最善を尽くしていきましょう。

あなたの夢を桜の聖母短期大学で実現し、あなたが、あなたのなりたい自分になり、愛と奉仕に生きる良き社会人として母校を巣立つ日まで、私たち教職員一同は、いつも皆様の傍らにいて支援させて頂きます。

68期生の皆様とそこご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。